

2021 年度（令和 3 年度）常磐大学高等学校 自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語科	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストや古文単語などの小テストを毎週実施し、基礎学力の定着を図る。 家庭学習においては、スタディサプリの授業動画などを積極的に活用し、授業の補強を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を目指し、各学年・コースで実態に応じた小テストや課題等の取り組みを行っているが、定期考査や模試などで応用して活用することがあまりできていない。漢字、語句の意味、古文単語、漢文句法といった基礎知識の養成に関わる事柄を主体的に反復学習する姿勢を身につけさせる必要がある。 スタディサプリアが課題として出される場合は積極的に取り組む生徒が多いが、自主的に活用する生徒が少ないので、対策を立てねばならない。
	読書への興味関心および表現力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 教材に関連する本を紹介し、発展学習に繋げられるようにアドバイスをする。 小論文などの指導において、読書を通して得た知識を基に自らの考えを確立し、相対する意見を踏まえながら論述する手法を習得させる。 	B	
	自学自習力の養成	<ul style="list-style-type: none"> ワークブックやプリントなどで学習内容を復習できるようにして、自主的に学習する力を養う。 定期考査の作問を工夫し、授業で得た知識を一般化して応用的に活用できる力を身につけさせる。 	A	
地歴 公民科	基礎学力の定着と理解の深化	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識習得の徹底を、個々の学習状況に応じて支援を綿密に行う。 毎回の授業における振り返りの時間を設け、生徒の学習状況を細かく把握して指導につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材を用いた授業展開は、コロナ禍に伴うオンライン授業期間と相俟って、運用・活用の速度が速まった。 新課程、新入試を見据えた授業展開については、模索の状況が続く。思考力を軸とした教材観や学力観の見直し、延いては教科学習の在り方の再検討も踏まえた、今後の課題であろう。
	社会に対する興味関心の向上	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材や新聞記事などを活用し、生徒が主体的な意欲を持って取り組める教材を開発する。 タブレットを活用して生徒が学び合い、社会現象を多角的に捉える授業を展開する。 	A	
	豊かな思考力・判断力・表現力の養成	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を設定し、レポートを作成する経験を積ませる。 考査の設問において、思考力・判断力・表現力を問うものも取り入れる。 	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
数学科	授業内容の工夫と基礎・基本の充実	・話し合いや教え合いを授業時間内に積極的に行わせることで、能動的に授業に参加するきっかけを設けるとともに、理解の定着を促す。	A	A ・単元別の小テストを多く実施し、基礎力の定着を図ったが、模擬試験のレベルには及ばない。現時点で習熟度に応じた対応はできていない状態である。同クラス内の学力差・意欲差がかなり広いため、今後学校の向かう方向に合わせて、学習においても、対策を考えなければならない。導入しているスタディサプリでは、課題として配信していたものは取り組むものの、自主的に取り組む姿はほぼ無いため、必要性の部分から対策を練らなければならない。
	受験で数学を諦めない姿勢の育成	・定期的に授業や課外を通して模擬試験の過去問の解説を行うなどして、教科書レベルから標準的なレベルへの移行を促す。	B	
	透明性の高い評価基準の周知	・ループリックを作成、配布することで、公平に評価基準を把握することができるようにする。	A	
理科	生徒の実態・理解度に応じた授業の展開	・実験、実習を取り入れながら科学的に物事を見る力を養うとともに、上級学校への進学後に必要な学力を身に付けさせる。 ・指導法の工夫や改善に努め、わかりやすい授業の展開を目指す。	B	B ・学習習慣や基礎学力が不足している生徒を支援しつつ、上位層の生徒の学力向上を達成するために、学習活動の充実を図る。 ・日常の課題や長期休業中のゼミ開講、課題学習などにより継続的に学習に取り組める環境を提供し、学力向上を促す。 ・オンライン授業に十分に対応できるよう ICT の活用を更に進める。 ・新教育課程に対応した指導法の研究と活用に努める。
	授業時間確保の徹底	・授業交換により自習時間をつくらないことを基本とするが、やむを得ず自習時間が生じた場合は、課題を準備し理科教員が補充にあたる。	A	
保健 体育科	心身の健康への理解および様々な問題に立ち向かう精神力と体力の育成	・保健指導並びに体育実技指導の両面から、個々にあった具体的な目標を持たせることで、達成感や充実感を味わえるような機会をつくり学習させる。	B	B ・まだまだ拡大する感染症の影響により、計画した授業展開の半分程度しか実施することができなかったが、教員の感染予防に対する呼びかけや指導はしっかりとできていたと思われる。今後は生涯にわたって運動に親しむ能力を育むため、「する、みる、支える、知る」の4つの観点を高める要素を授業に組み込むと同時に、「できる、できない」から個々の能力に合わせた達成度を評価する機会を増やしていきたい。
	基礎体力、個人技能、集団技能の向上と、安全に協力して楽しく運動に取り組む姿勢の育成	・様々な種目を学習することで、その運動の特性を知り、個人を認め合い協力していく姿勢を学習させ、個人・集団技能の向上を図る。 ・クラスマッチなどによりルールやマナー、協調性、思いやりの心を身につけさせる。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
芸術科	個性豊かな人間性と情操の育成	・鑑賞の質を向上させるため、近隣の美術館やホールの活用をし、本物の芸術と触れ合う機会を作る。時代や社会に合った新しい教材の開発、自由課題の取り組み等によって総合的な能力の開発をする。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の経験を活かし、新しい教材の開発と、新しい指導法を工夫・改善し、授業の活性化に努める。 ・新型コロナウイルス感染症対策に応じた、より個人の能力に応じた配慮ができるようにする。 ・音・美・書の情報交換をさらに密にし、芸術科としての課題を見つけ、それが解決できるように努力する。
	基礎表現力の育成	・生徒の実態に即した年間学習計画を立て、計画に沿った学習指導に努める。	A		
	個人の能力・進路に応じた指導	・個別指導に努め、個人の能力、適性に応じた細やかな配慮をする。	A		
	教科の協力推進	・音・美・書の情報交換を密にし、常に芸術科の目標、問題点を確認する。	A		
英語科	基礎学力の向上と定着	・Tokiwa Can-do を通して、各学年のゴールを具体的に意識し、各技能向上をはかる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト等を効果的に活用した実力養成は実施しているが、適切な語の調べ方、使い方をより具体的に指導し、自学方法の質向上を目指す。 ・ICT 活用はかなり定着してきているので、よりの確な使用方法を研究生徒の活動に生かしていく。 ・留学生が来日できず EC 活動自体は実施できていないが、ハリエインリー高校とオンライン会話を毎週のように実施できることが 10 月から実現している。これを継続・定着させていく。 ・ネイティブ教員が 1 名増えたことにより、個別指導がより充実できている。授業・ゼミ・個別指導への充実につなげていく。
	自分の考え感想を英語で表現する活動の充実	・コミュニケーション英語の授業を中心に、音読活動を通して語彙力を高め、読解速度を高め、より多くの英文に触れる。英語で知識を得る喜びを体験しながら、自分自身の考えを述べる。	A		
	典型的な英語表現力の運用力向上	・英語表現の授業を中心に、典型的表現を用いて、英作文等を重ね、ペアワーク、プレゼンテーション活動、オンライン英会話を通して、実際に活用する機会を増やす。	A		
	英語検定等、資格試験チャレンジの奨励	・授業を通して培った英語力がどのようなレベルに達しているか自己分析と他者へのアピールの材料の 1 つとして、検定のアナウンスと受検のための後押しを 0 限ゼミ等で行う。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
家庭科	生活に必要な基本的知識習得・生徒が主体的に取り組める適切な教材の提供	・生徒が主体的に取り組めるよう適切な教材を提供する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実・向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 感染対策のための実習室設備の充実。 教材の再検討。 I C Tの効果的な利用方法を研究し、授業の改善に活かす。
		・生徒一人一人の進捗状況に応じた指導を行う。	B	
		・施設・設備の安全管理に配慮し、実験・実習を実施する。	B	
	自らの生活の向上を図る力と、実践的な態度の育成	・学習したことを生かして、自らの生活課題の解決を図ることができるようにする。	B	
情報科	コンピュータや情報ネットワークを活用する知識や技能の習得	・Word・Excel・PowerPointのソフトを活用できるようにする。また、検定試験に挑戦させ、習熟度を確認する。	A	<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業になった場合でも対応できる授業の構築が必要。 プログラミング教育をメインとした授業を展開していきたい。 生徒の進み具合に注意しながら、物事を解決するために道筋をたてて説明できる生徒の育成に尽力したい。
		・コンピュータやネットワークを活用して、情報を適切に収集・処理・発信する基礎的な技術と技能を習得させる。	B	
	情報を正しく扱うためのマナーやルールの理解および主体的に活用する態度の育成	・研究レポートの作成を通して、情報を収集し必要な情報を利用する力を育成する。また、画像の利用を通して、著作権やマナーを理解させる。	B	
		・発表体験を通して、自分の考えをまとめ主体的に相手に伝える力を育成する。また、グループワークを通して、他の意見との比較をさせる。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務部	新学習指導要領に基づく教育課程の完成	・各教科と共通理解を図りながら、教育課程を編成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領が求める教育だけでなく、本校の魅力在前面に出すことのできる授業計画を準備する。 ・学習評価の新しい基準を各教科に浸透させる。 ・新教務システムへのスムーズな移行を図る。 ・教員研修で取り上げられた本校の課題をどのような手段で解決していくか。 ・2学期制の導入と学校行事の見直し計画を進める。
	各分掌間の円滑な連携と教育活動の活性化	・教育活動が円滑に行われるよう、全職員の共通理解と協力態勢を構築する。	B	A	
		・授業の振り替えを円滑に行う方法を構築し、自習時間を削減する。	A		
	外部への情報提供を活性化	・部活動の活動報告だけでなく、各学年や各部の行事を積極的にアップする。	B	B	
	新教務システムの導入と円滑な運用	・適切な教務システムを選定し、業務効率化や教育の質の向上を図る。	A	A	
学校行事の円滑な運営	・各部、各学年との連携を密にして、学校行事が円滑に実施されるよう努める。また、終了後は広く意見を集約し検証する。	B	B		
生徒部	生徒の問題行動の事前防止と抑制	・校内、校外の巡視を実施し、生徒たちが生活しやすい環境をつくる。常磐大学高校生らしい、品位ある服装やマナーを身につける。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案件も減り、問題行動をさせない雰囲気为学校全体でつくる。 ・2022年4月1日から18歳成人となるので、学校としての諸問題を早めに議論したい。
	新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら、豊かな人間性を育み、高校生としての人格形成	・感染による、偏見や差別をなくし、生徒と教職員が協力して明るい生活環境をつくる。	A		
	SNSに関する問題行動の防止、対策の実施	・メディア講演会を全校生徒向けに実施し、ネットリテラシーを高める。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
入試 広報部	広報誌・学校案内パンフレットを通じた学校理解の促進	・学校案内パンフレット・広報誌（T-Color）等を通して、本校の教育活動を紹介する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・出願控えによる出願者数が大幅に減じたことをどう克服していくか。ソフト面の教育環境をより充実させ、学校としての魅力を発信し、また信頼を得られるようにしなければならない。そのためにも、校内でよく議論し、本校の目指す学校像を明確にし、その実現に向けて行動していくことが必要不可欠である。 ・入試問題について、これまでは県立高校の問題に準じたものとしていたが、県立高の問題傾向が変更されたことから、本校が今後どうすべきかを検討していかなければならない。
		・選択される学校になるための教育活動について積極的に発信する。	A		
		・本校受験に役立つ情報を発信する。	B		
	ホームページ・SNS等による情報発信	・ホームページ・SNS等を通して、的確で速やかな情報発信を行う。	B	B	
	学校見学会の実施 および説明会参加	・実施時期、内容を各地域の中学校に周知し、参加を呼びかける。	A	A	
・参加者に本校の特色を知ってもらい、本校への理解を深めてもらう。		A			
・各中学校で行われる私立高校説明会や進学相談会等に積極的に参加し、本校の取り組みについて理解を深めてもらう。		A			
ニーズ調査の実施	・説明会参加者へのアンケートおよび入学生とその保護者へのアンケートを実施し、ニーズを捉え、活動に反映する。	A	A		
保健部	生徒が心身ともに健康な状態で学校生活を送る支援の確立	・保健室経営計画に基づき、適切な保健室経営を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教員・保護者・SCとの連携を密にし、生徒の心身の健康についてチームで取り組む。 ・今後も受診勧奨を速やかに行い、生徒の疾病異常の早期発見に努める。 ・次年度も毎朝、健康アンケートを配信し、入力呼びかけを強化し、生徒が主体的に自身の健康を管理する一助とする。 ・オンライン下でも生徒が安心してカウンセリングを受けられる方法を検討したい。 ・グループエンカウンターやアサーショントレーニングを計画的に行えるように学年と協力して企画・実施する。
		・保健室利用時に健康相談等がしやすい環境づくりに努め、担任や学年、教科担当者、保護者やスクールカウンセラーと連携を図る。	A		
		・各健康診断を学校医・学校歯科医と連携しながら適切に実施し、生徒の健康状態を速やかに把握する。その結果、異常や疾病の疑いのある生徒には、出来る限り速やかに受診勧奨を行う。	B		
		・マスクの装着や手洗いの励行、正しい知識の定着、教室の環境整備（換気や消毒）を通して、新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種感染症の予防に努め、健康の保持・増進に繋げる。	A		
		・生徒が自主的に心身の健康管理ができる力の醸成を図るため、保健だより・相談室だより、掲示物などを作成する。	A		
	教育相談活動の充実	・週2回のスクールカウンセラーのカウンセリングを適切に調整・実施し、切れ目のない支援に繋げる。	B	B	
・生徒のコミュニケーションスキルの一助となるよう、グループエンカウンターやアサーショントレーニング等を企画・実施する。		B			
健康的で快適な学習環境整備	・学校薬剤師による環境衛生検査を適切に実施し、不十分な点があれば全教員で共通理解し、改善するよう努める。	A	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
進路部	生徒の進路希望の実現	・各学年ごとに生徒が主体的に進路を考え、それに基づいて適切な行動ができるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や教科との連携を深め、さらに充実した進路実現を目指す。 ・共通テストが本格的に始まり、従来の演習では対応できなくなっている状況にどう対応していくのか。各教科との連携を進める必要がある。 ・大学進学後に戸惑わずスムーズに授業に参加できる学力を身につけさせる。
		・進路室の利用が活性化するように努める。	B		
		・長期的視野に立ち将来設計ができるようにする。	A		
	進学についての共通理解の深化	・学年・担任・進路部が共通理解のもと、生徒の進路を考える体制をつくる。	B	B	
		・模試の効果的活用を図る。分析ソフトやインターネットを利用し生徒に還元できる情報を収集する。	B		
	実態に応じた適切な進路情報を保護者へも提供	・クラッシーを通じて進路情報の提供を進める。	A	A	
・保護者対象の進路講演会を適切な時期に開催する。		A			
特別活動部	生徒主体の学校行事	・新入生歓迎セレモニー、総体壮行会、部活動引き継ぎセレモニーにおいて、できる限り形式的にならないよう心がける。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心に残るような学校行事をつくるよう生徒とともに考える一方、新型コロナの状況に応じて冷静に判断し、生徒をパンデミックから守る。 ・持続可能なときわ祭の規模と内容をつくり上げる。 ・教員中心で行事・委員会・生徒会を運営するのではなく、生徒の主体性を重視する。 ・部活動顧問会議を実施し、規律などを共有し、指導にばらつきがないようにする。
		・未熟な分野に関しては教員から指導・助言をしながら、実行委員の生徒が積極的にときわ祭の企画・運営に携わる。	A		
	活発な生徒会活動	・意見箱の活用、活発な生徒評議会・生徒総会を通して、よりよい学校作りに貢献する。	C	B	
		・クラスマッチにおいて、今まで以上に企画や運営に自主的に関わる。	B		
	委員会の見直し	・新しい委員会の設置を検討するとともに、形骸化している委員会の見直しを図る。	A	A	
	3年間を見通したLHR活動	・学年、教科、進路、生徒部と連絡を密にし、3年間を見通したHR活動の検討を図る。	B	B	
	部活動の活性化	・部活動・同好会活動を盛り上げるとともに、学習面との両立を図る。	B	B	
		・集団活動を通して、自主性・責任感・協調性・連帯感を育成する。	B		

研究 開発部	体系的な探究学習プログラムの構築	特進選抜コース ・個人課題研究を見据えた資質・能力の育成につながるプログラムの改善。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会と連携した探究プログラムを構築して、生徒が主体的に取り組み、資質・能力の向上につながる内容を目指す。 ・評価方法については、本校が目指す資質・能力を意識したルーブリックを構築・運用して改善点を抽出する。 ・ICT教育については、全学年がタブレット端末をもつため、教科教育における効果的な活用方法を模索するとともに、情報リテラシーの向上に努めたい。 ・学校外の活動については、外部機関との連携を強め、生徒の学びを深める機会を提供する。 	
		特進コース ・SDGs やキャリア教育を意識した体系的プログラムの改善。 ・研修や発表会を通じた教員意識の醸成。	B			
		評価指標の検討	B			
	I C T 教育の普及と情報リテラシーの育成	・学校が目指す資質・能力と関連づけたルーブリックの作成。 ・学びみらい PASS など評価アセスメントの効果的利用。	B			B
		・ICT 活用指導力の向上。 研修の充実や教科の実践例の蓄積を通して、ICT 教育の普及に努める。 ・情報リテラシーの育成。 ロイロノートや GWE の機能に注目した本校独自プログラムの作成。	C B			
	学校外機関との連携強化	・学問への関心を高め、汎用的能力を育てる大学特講の展開。	B			B
・外部機関と連携し、生徒の視野を広げるプログラムの構築。		B				
国際教育	異文化体験（留学等）による異文化理解と語学力の養成、国際社会で活躍できる人材の育成	（本年度コロナウィルスパンデミックによりカナダ留学プログラム募集中止） ・2022 年度へ向けハリー・エインリー高校 3 か月語学留学の充実を図る。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ English Day Camp 等への参加を奨励する。 ・(2022 年度へ向け) ハリー・エインリー高校 3 か月語学留学の充実を図る。 ・生徒が国内で参加できる国際教育活動を支援する。 ・各種スピーチコンテストへの参加を促す。 ・常磐大学 EMPOWERMENT PROGRAM への参加を奨励する。 	
		・生徒が国内で参加できる国際教育活動を支援する。	C			
		・ホームページにおける情報提供をする。	C			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
1 学年	基本的な生活習慣の確立	・クラスや学校での集団生活に必要なルールとマナーを理解させ、自律的な生活が送れるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・通常授業とオンライン授業それぞれの長所を活かした授業作りとその効果を検証し、主体的な家庭学習習慣への移行を図る。 ・タイムマネジメント意識のさらなる向上と、計画的に目標を達成する行動力の養成を図る。 ・中堅学年として部活動や学校行事に積極的に関わるリーダーを養成するとともに、協働を通して他者を思いやる心を育む。
	基礎学力の充実	・学習の基本が授業であることを認識させ、家庭学習習慣化との相乗効果を図る。	B	B	
		・担任面談・コース面談を通し、生徒と課題を共有することで支援の充実を図る。	A		
	キャリア教育の充実	・キャリアガイダンス等を通し、自己の適性や関心を見つめ直し職業観を広げ、進路選択へ向け意識の向上を図る。	A	A	
		・タイムマネジメントを意識させ、課題達成に向け逆算する力とともに計画的に行動する力を育む。	B		
特別活動への参加	・部活動や学校行事などにバランスよく取り組み、主体的に行動することの意義を理解させるとともに他者を思いやる心を育む。	B	B		
2 学年	自律に基づく生活習慣の確立	・問題行動の防止・早期発見・早期指導に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活、学習、進路指導について教員の共通理解を徹底する。 ・学力向上と進路決定に向けて、教科担当、進路など学年外教員の協力を得られるようにする。 ・教員間、生徒間で丁寧な言葉遣いを心がける。
		・服装・頭髪指導を継続的に実施する。	B		
	学習指導の充実	・学習の基本が授業であることを認識させ、家庭学習の習慣化を図る。	B		
		・スタディサプリなどの教材の活用によって学力向上を図る。	B		
	進路目標のさらなる明確化	・キャリアガイダンス、オープンキャンパス、インターンシップ等を活用して、自己の興味・関心及び適性を考え、将来の学部・学科等の絞り込みを行う。	B	B	
修学旅行の充実	・事前指導を十分に行い、団体生活に必要な規律やマナーを学習させ、協力性と団結力を養う。資料館、などの見学を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを学習させる。	A	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
3 学年	基本的な生活習慣および最高学年としての自覚と品位の確立	・清掃の徹底、教室整備など学習環境を充実させたり、挨拶の励行、制服の正しい着用など規則正しい生活を習慣化させることで学習に集中できる環境を保つ。	A	A	
		・遅刻や欠席などの防止について、家庭との連絡を密にする。	A		
	進路目標の具体化および実現のための様々な力の養成	・日々の授業の大切さを認識させ、かつ、予習や復習など家庭学習の確保と定着化を図り学力向上に繋げる。	A	A	
		・受験に関する最新情報を生徒、保護者に提供する。	A		
		・面談を適宜行い、自己理解を深めさせて生徒一人一人に対応した進路指導を実施する。	A		
		・探究やHRの授業を利用して小論文や面談について学ぶ時間を設け、受験期には複数の教員で個別に指導する。	A		
		・習熟度や進路希望に応じて、0 限ゼミや長期休業中のゼミを充実させる。	B		
	社会規範の遵守など、進学や就職に必要な社会性の確立	・HRの授業などで、社会生活におけるマナーの大切さや時事問題などに触れる機会を持つ。	A	A	
・表現学習ノートの活用や面接練習などで、受験だけではなく社会人として役立つような自己表現力を身につけさせる。		A			

判定規準 A:大変よくできた B:よくできた C:ふつう D:やや不十分 E:不十分